

原 著

実践的指導力の育成を目指す教員養成教育の在り方

— 岡山大学教育学部の場合 —

有吉 英樹 (岡山大学教育学部)

近年の社会状況の急激な変化は、教員養成教育のカリキュラムについても大きな変革を求めている。特に、学校現場が求めているのは、学校が担っている今日的な教育課題を遂行していく実践的な指導力を備えた教員の養成である。教育職員養成審議会がこれまでの答申の中で提示してきた、教員の養成段階において身につけさせるべき教員の資質能力について参考にし、今日的な教育課題も視野に入れながら、岡山大学教育学部が実践的指導力を育成するため取り組んできた、教育実習の在り方、教員養成カリキュラムの理念と再構築等について考察する。さらに、中央教育審議会が2006年に提示した「教職実践演習」の特徴を検討すると共に、この科目が必修化されることから、本学部では、この科目を4年次の教員養成カリキュラムの中に、どのように位置づけて、実践的な指導力のいっそうの向上を目指しているか等についても考察していく。

キーワード： 実践的指導力, 教育実習, 教員養成教育, 資質能力, 教職実践演習,

1. はじめに

日本の社会状況の加速化していく変化、すなわち情報化、国内外の国際化、少子化及び高齢化等々の進行は、教育をめぐる諸課題を解決していく上でも、現職教員の研修と教員養成教育に対して、たえず変革を求めている。

教員養成教育のカリキュラムに関しては、これまでに中央教育審議会及び教育職員養成審議会の諸々の答申内容に基づいて、教育職員免許法令の改訂が行われ、「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」、「教育実習の事前・事後指導」、「教育の方法・技術(情報機器及び教材の活用を含む。）」、「教職の意義等に関する科目」、「総合演習」等が創設されてきたし、中学校実習については2単位から4単位となり、さらには特別立法により、小・中学校の教員免許状の取得には、7日間の介護等体験が義務づけられた。

これら科目の新設・必修化、教育実習の単位の増加措置、介護等体験の義務化等は、いずれも学校現場の今日的な教育課題の解決と、教育養成教育カリキュラム改革とを、架橋し融合させ、実践的な指導力の育成と向上を実現していこうとするものである。

かつて、教育実習は教員養成教育の総仕上げとして位置づけられ、4年次後期に設定されていた。その方式では、教育実習を通じて学生たちが見いだした自らの研究課題を、実習後に追究し研究していく

には、時間的な制約が大いにあったし、他方、学校現場から遊離した状態で、教師になるための学習を3年余もすることになった。

現在、教員養成系大学・学部では、1年次から4年次までの積み上げ方式により教育実習を設定し、学生たちが各学年において、教育実習を通じて学校現場における体験的な学習を行うと共に、自ら見出した研究課題に取り組むことができるようにしている。

教育実習は、教員養成カリキュラムの中でも、最も学校現場に直結し、理論と実践とを架橋し往還させる役割を担っており、実践的な指導力の育成に果たす役割は極めて大きいと言えよう。

実践的指導力の育成は、教育実習がその中核をなしているが、教育実習以外の授業科目と有機的な関係を持たせて、教員養成の全体カリキュラム全体を通じて、実現していくべきものである。

2010年度の入学生から、必修科目となる「教職実践演習」は、科目が一つ増えるというのではなく、この科目は、教員養成教育の総仕上げとしての位置づけがなされているものであり、全国の課程認定大学・学部は、カリキュラム全体の検討と再構築を求められている。このことを踏まえつつ、実践的指導力の育成を目指す教員養成教育の在り方について、考察していく。

II. 教育職員養成審議会の答申が提示する、新たな時代の教員の資質・能力について

教師の仕事が専門職であることは、ILO・ユネスコ共同勧告の以下の条文に定めているように、国際的なコンセンサスになっている。

「教育の仕事は、専門職とみなされるものとする。教育の仕事は、きびしい普段の研究を通じて獲得され、かつ、維持される専門的知識および特別の技能を要求する公共の役務の一形態であり・・・。」¹⁾

教育に関する専門職の仕事を担うべき教師の資質・能力については、1987年の教育職員養成審議会答申が、次のように捉えている。

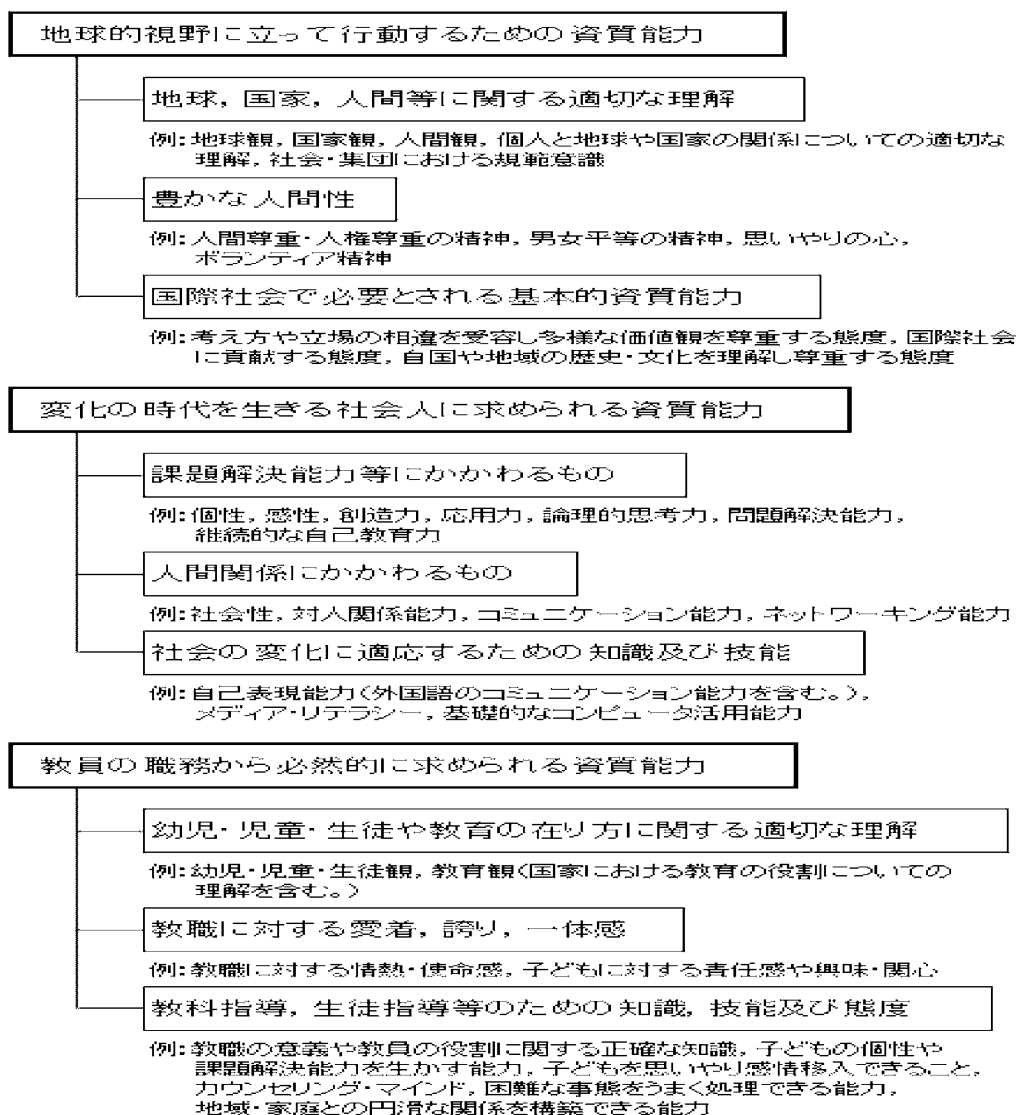
「教育者としての使命感、人間の成長・発達についての深い理解、幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、そしてこれらを基盤とした実践的指導力といった能

力がいつの時代にも教員に求められる資質能力である・・・。」²⁾

1997年の教育職員養成審議会第1次答申では、教員の資質能力については、「専門的職業である『教職』に対する愛着、誇り、一体感に支えられた知識、技能の総体」³⁾と解している。

1999年の教育職員養成審議会第3次答申になると、旧来のような「いつの時代にも求められる資質能力」、いわゆる「教員の職務から必然的に求められる資質能力」に加えて、「今後特に求められる資質能力」として、「地球的視野に立って行動するための資質能力」及び「変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力」⁴⁾を新たに明示したことは、教員の資質能力についての考え方に、新たな地平を拓くものとして、刮目されるべきであろう。【図1】

【図1】 【参考図】 今後特に教員に求められる具体的資質能力の例



変化の激しい時代・社会状況を鑑みて、第3次答申が提起する「資質能力」では、教師が「行動する」ことを求めている。

「地球的に視野に立って行動するための資質能力」を、大学では学生たちに身につけさせねばならないのである。もちろん、その「行動」とは、一般社会人の「行動」とは異なり、教師としての「教育実践」活動を意味すると解すべきである。

特定の授業科目のみで、このような資質能力を学生たちに身に付けさせることは、およそ望めないであろう。

第3次答申において新たに提起されたこれらの「資質能力」は、教員養成のカリキュラム全体を根底から検討し、再構築していく必要を迫るものである。

答申は、各大学が「養成しようとする教員像を明確に持ち、それを達成するための組織を構成してカリキュラムを編成すること」、大学教員が「自分の専門の授業と教員養成とのかかわりを考えた授業を行っていくこと学生が課題探求能力を身に付けることができる授業を行っていくこと」、「大学の教育について実効ある自己点検・評価を実施すること」等を提言している。

第3次答申は、養成段階で習得すべき「最小限必要な資質能力」について、以下のように提示している。

「採用当初から学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力」

資質能力に関連して答申は、「得意分野を持つ個性豊かな教育の必要性」も説いている。

教育実習期間の当初の段階においては、教科指導が中心となるが、教科の指導力がある程度向上してくると、学級経営や生徒指導についても力を注ぐことができるようになる。

公立校園では、様々な家庭環境に生育し個性も多

様な子どもたちが在籍している。

採用当初から、教科指導、学級経営、生徒指導等の職務を遂行していくためには、附属校園における教育実習だけでなく、公立校園での教育実習が不可欠である。

しかもその教育実習は、特に学級経営や生徒指導の力量を向上させていくためには、比較的長期にわたって行われることが望まれよう。

このことに関しては、第3次答申が、大学と教育委員会等との連携方策の充実を謳い、「教員を希望する学生が日常的に学校現場を体験できるような」体勢の整備、そして採用内定者が「学校現場を体験できるような」体勢の整備を強調している。

岡山大学教育学部では後述するように、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会及び倉敷市教育委員会と提携協力し、公立学校園の協力を得て、4年次前期に「応用実習」、後期に「学校教員インターンシップ」を実施し、教職希望の学生がこれらの資質能力を身に付けるように努めている。

Ⅲ. 岡山大学教育学部における実践的指導力の育成について

本学部では、教育実習を1年次から4年次までの積み上げ方式で実施している。各年時において実施される教育実習のねらい及び内容は、【表1】5)の通りである。

入学して間もない頃から、4年次の卒業時まで、各学年において、子どもたちの現実態、教師の仕事への理解、学校の現代的な教育課題等々について、順次、体験的に学習できるように、教育実習を配置している。

学生たちは、各学年に設定されている、このような教育実習体験を通じて、自ら発見した研究課題について、大学に戻って取り組み学習を深めていくことができる。

【表1】 4年間「教育実習」の積み上げ方式

期	ねらい	内容
1年次前期	・各校種の特徴、各校園の教師の職務内容を把握する。 ・教職への意欲を高める。 ・子どもの発達段階の特徴を理解する。	附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の4校園において、それぞれ1日観察参加実習
2年次10月	・障害のある子どもの実態を理解する。 ・特別支援教育について理解する。 ・ノーマライゼーションを理解する。	県立特別支援学校において、2日間の観察・参加実習

期	ねらい	内 容
3年次前期	・主免教育実習に向けて、教科指導、生徒指導等の理論を学び、授業観察・模擬演習等を通じて実践力の基礎を培う。 ・保護者・地域の連携協力の事例を知る。	指導案の作成と模擬授業演習。附属における授業参観と教科指導。生徒指導の理論と実践例など。
3年後期	・教育実習を通じて、教科指導・生徒指導・学級経営等の力を育成する。	附属学校園において、4週間の主免「教育実習」
4年次6月	・公立学校園の子どもの実態を把握する。 ・多様な子どもの実態に即した授業及び生徒指導を実践する基礎力を身につける。 ・ 地域と学校の連携について理解する。	・公立学校園において、主免に応じての「教育実習」(応用実習)に取り組む。 ・選択科目 1週間1単位
4年次後期	・教師の職務全般にわたって、体験的に学習し理解を深める。 ・教科指導力、学級経営力を高める。 ・子どもの成長・発達を半年間のスパンで観察し指導することにより実践的指導力を高める。 ・即戦力を身につけ、教職へのソフトランディングを図る。	・学校教員インターンシップ(選択科目 2単位) ・「教育実習」の発展科目としての性格を有する。 ・半年間にわたり、週に2日間ほど学校現場に身を置いて、教師の授業・学級経営・教材作成等々、教師の諸種の活動について、援助等を行う

(「教育実習の手引き」「教育実習の手引き(1・2年次用)」等に基づいて作成。

1年次の前期に行われる附属学校園への1日観察参加実習は、教育現場に赴きそれぞれの学校園の教師の職務内容の特色、子どもの発達段階等を把握し、教職への意欲を喚起するねらいがある。

2年次は、県立特別支援学校6校へ2日間にわたって分散実習する。子どもたちの障害の種類や程度等を把握すると共に、教師がどのような働きかけ・支援をしているのを実地に学習する。この2日間は、介護等体験7日間のうちの2日間を兼ねている。

3年次前期の「教育実習基礎研究」は事前指導として実施され、授業観察及び授業者による事後指導、教職経験者による指導案の作成指導・模擬授業演習も含まれている。3年次後期は主免の種類に応じて、附属4校園において4週間実習が行われる。

4年次6月期には、主免の「応用実習」として公立校園において1週間行われる。選択科目であるが、教員採用試験を受験しようとする学生たちには、この実習に取り組むように働きかけている。

7月には教員採用試験が控えているため、1週間を延長することは難しい状況にある。

4年次後期(10月～2月)に実施される「学校教員インターンシップ」は、2001年度に試行し、2003年度以降は教育実習の発展科目として実施している。

この科目は、「教育理論と教育実践を融合させながら教員になるために形成してきた実践的指導力の基礎(「教科指導力」「学級経営力」「生徒指導力」「保護者との連携力」等)をブラッシュアップするとともに、学校の組織人となって学級を担任しつつ、教科指導や生徒指導をすることができる力を総合的に身に付けることを目標としている」6)のである。

教育実習とは異なり、学生たちは半年間という長期にわたって、学校現場に週に2日程度かかわって、教師の職務全般について体験的に学習し、教科指導、生徒指導、保護者及び地域との連携等々について、学習と研究を深めていく。子どもたちに比較的長期にわたって接し指導することにより、成長・発達過程をよりよく実践的に学ぶことができる。

2007年度及び2008年度の公立学校園における学校教員インターンシップの参加者数を、以下に示す。

	2007年度	2008年度
公立幼稚園	7人	5人
公立小学校	33人	30人
公立中学校	7人	4人
合計	47人	39人

(2008年度の数値は受講申告中の人数のため、実際にはこれより増える。)

教育学部における母数となる学生定員は、幼児教育専攻 10 人、小学校教育専攻 120 人、中学校教育専攻 30 人であることを考えると、参加者数は少ないと言わざるを得まい。

2009 年度の新 4 年生は、学部改組により総合課程の定員 80 名を教員養成課程に吸収した第 1 世代であり、参加者数が増えることが期待される。

教育学部では、2006 年度から、「より実践的な指導力を身につけた教員養成をするために、教育実習・体験的授業科目を軸（コア）にした「教員養成コア・カリキュラム」7) を開発して取り組んでいる。

その開発研究の成果に立脚して、「実践的指導力

育成のための学びの軌跡 教職実践ポートフォリオ」(以下、「ポートフォリオ」と略称する。) 8) を作成し、2008 年度はその試行段階にある。

コア・カリキュラムでは、教育実践力を構成する力として、1. 学習指導力、2. 生徒指導力、3. コーディネート力、4. マネジメント力、の 4 種類として捉えている。それぞれの力の内容項目については、以下【表 2】9) の通りである。

【表 2】 教育実践力を構成する 4 つの力とその内容項目

4 つの力の名称	内 容 項 目
1. 学習指導力	①習状況の把握力 ②授業設計力 ③授業実践力 ④授業の分析・省察力
2. 生徒指導力	①子どもの発達の特長を理解する力 ②子どもの生活を理解する力 ③学校・学級での生活を指導する力 ④コミュニケーション力
3. コーディネート力	①連携・協力の現状を理解する力 ②保護者、地域とつながる力 ③実習校の教職員とつながる力 ④教育実習生同士で協働する力
4. マネジメント力	①学級をマネジメントする力 ②学年・学校行事をマネジメントする力 ③学校マネジメントを理解する力 ④セルフ・マネジメント力

(「ポートフォリオ」の内容に基づいて作成。各項目についての説明文は、省略した。)

本学部では、この 4 つの力を 4 年間を通じて、身につけさせるべく、教育実習を始めとしてカリキュラム全体を構築している。

4 年間で 5 つの期に分けて、それぞれのねらいを明確にし、さらにそれらのねらいに即して、内容を【表 3】10) のように配列している。

そして、各コース・課程毎に（すなわち、小学校教育コース、中学校教育コース、幼児教育コース、障害児教育コース「小」、障害児教育コース「中」、養護教諭養成コース、のそれぞれについて）、教員養成コア・カリキュラムの標準的な履修モデルを作成している。

【表 4】11) は、中学校教育コースのコア・カリキュラム履修モデルである。

4 つの力の育成について、各学年及び各期において、どのような授業科目が担っているのかを、鳥瞰できるようにしている。

これによって、学生たちは自分の到達目標を、具

体的に理解し、その目標に向けて自覚的に学習を進めることができよう。

表中にある「プロジェクト科目」とは、学校現場や社会教育施設、福祉施設等の協力を得て、実施している体験的な学習を重視している科目である。

授業科目とは別に、岡山市教育委員会が実施している「学校支援ボランティア」活動に 1 年次から、参加する学生もいる。岡山県教育委員会が 2008 年度から実施している「教師への道 インターンシップ」に参加する学生もいる。

後者の場合は、「大学 3 年生以上、短期大学の場合は 2 年の、教職への希望が他界学生で、教育実習を経験した、または 1 年以内に経験する見込みの学生が望ましい」12) としている。

【表3】 各期のねらいと内容

期	ねらい	内容
I. 教職への意欲向上期 (1年前期)	1年生を教育実践の世界に誘い、教職に対する夢と希望をさらにふくらませる。	・教育と教育実践、教育の制度と社会に関する入門的な授業科目 ・子ども・教育実践にふれる1年次4校園観察学習
II. 教育実践理解期 (1年後期～2年前期)	教育実践の諸構成要素および実践の事実に関する理解をふくらませ、教育実践観を拡張する。	・学習と学習指導、子どもの発達、学習指導、各教科の内容と指導法など、教育実践を理解するための多様な授業科目。座学中心の時期 ・特別支援学校で多様な教育実践を体験する2年次教育実習
III. 基礎的教育実践力養成期 (2年後期～3年前期)	教育実践に必要な実践的指導力を身につけ、多様な教育実践を経験する中でそれを高める。	・学習指導、生徒指導に関する実践的指導力を養成する発展的な授業科目 ・各教科の内容と指導法に関する科目 ・主免教育実習の事前指導（「教育実習基礎研究」）
IV. 発展的教育実践力養成期 (3年後期～4年前期)	教育実践をめぐる新しい課題について理解するとともに、いつでもどこでも発揮できる真の教育実践力を身につける。	・新しい教育実践課題を理解し探求する授業科目（各教科の指導法開発） ・3年次主免4週間教育実習。4年次1週間応用的な教育実習 ・プロジェクト科目
V. 採用前研修期 (4年後期)	教育実践を研究する力量及び即戦力としての実践的指導力を高める。	・学校教員インターンシップ（半年間） ・卒業研究

（「ポートフォリオ」に基づき、一部加筆して作成。）

【表4】

教員養成コア・カリキュラムの履修モデル(中学校教育コース)

学年		1年	2年	3年	4年	
期	教職への意欲向上期	教育の制度と社会	教育実践理解期	基礎的教育実践力養成期	発展的教育実践力養成期	採用前研修期
	コア・カリキュラム	【教育社会学・教育法総論・生涯学習社会学・教育実習】				
実務的指導力	マネジメント力	教職論				
	学校外	ボランティア・体験的学習				
授業科目	学校	プロジェクト科目				
	学校	1年次教育実習	2年次教育実習	総合演習 教育実習基礎研究	3年次教育実習	4年次教育実習
学習指導力	教科の指導法	教科の指導法		教科の指導法開発		卒業研究
	カリキュラム	カリキュラム編		教科の内容開発		
生徒指導力	情報メディアの授業活用	情報メディアの授業活用				
	【学習指導論・学習指導心理学】	【学習指導論・学習指導心理学】				
教育学概論	教育学概論	教育の哲学と歴史				
	学校教育心理学	発達心理学	生徒指導論Ⅰ		【教育相談論・進路指導論・生徒指導論Ⅱ】	
特別活動	特別活動		特別活動			
	特別活動		特別活動			
道徳教育	道徳教育		道徳教育			
	道徳教育		道徳教育			
発達障害児童支援	発達障害児童支援		発達障害児童支援			
	発達障害児童支援		発達障害児童支援			

注：【】は選択必修科目

IV. 「教職実践演習」の必修化、及びその運営の構想について

2006年7月に発表された中央教育審議会答申13)を受けての法令改正により、文部科学省は、2009年度に課程認定大学に対して、「教職実践演習」の申請を求め、2010年度の入学生から「教職実践演習」は必修科目として設定されることになった。

必修となる「教職実践演習」が有する最大の特徴は、他の「教職に関する科目」とは異なり、「教員として最小限必要な資質能力」を身につけたかを、確認する科目として捉えていることにある。

この科目の趣旨・ねらいについて、答申は次のように述べている。

「・・・学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、課程認定大学が自らの養成する教員像到達目標等に照らして最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じて「学びの軌跡の集大成」としていちづけられるものである。」

この趣旨を踏まえて、本科目には、以下の4つの事項を含むことが適当である、としている。

- ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
- ②社会性や対人関係能力に関する事項
- ③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項
- ④教科・保育内容等の指導力に関する事項

本科目の企画、運営、実施に当たっては、学校現場や教育委員会との緊密な連携・協力を留意すること、も求めている。

答申は、授業内容について、9つの事項を例示した上で、「どのような」授業を行えば、学生が教員として最小限必要な資質能力の全体を修得しているか（理解しているか、身に付いているか）確認できるかを例示したものである、と説明している。

上記の4つの事項それぞれについて、到達目標を明示し、目標に到達したことを判断する指標を設定することが求められている。

専門教科や、教育実習を含めての教職関係科目を履修し、それらの単位を修得すれば教員免許を取得できるこれまでの方式とは違って、「教職実践演習」は、資質能力を身に付けたかを確認すると言う、いわゆる履修主義教育から修得主義教育への転換を意味する科目である。

「課程認定委員会決定」による「教職実践演習の実施にあたっての留意事項」14)によれば、

・教職に関する科目の担当教員と教科に関する科目

の担当教員が協力して、当該科目を実施すること。
・支流時期は、4年次（短期大学の場合は2年次）の後期に実施すること。

を指摘している。

授業方法については、

- ・演習を中心とし、適正な受講者数であること。
 - ・役割演技、事例研究、フィールドワーク、模擬授業等を取り入れること。
 - ・現職教員、教員経験者を講師として含めた授業であること。
 - ・授業計画の立案に際して、教員委員会や学校の意見を反映させること。
- などを挙げている。

単位認定については、「実技指導、グループ指導、補完授業、試験の結果等を踏まえ、教員として最小限必要な資質能力が身に付いているかを確認し、単位認定を行う。」と明言している

【図2】は、2006年の中央教育審議会の答申内容に基づいて、「教職実践演習」を本学部において、どのように開講すべきか、「実習・教職実践演習等 ワーキンググループ」を立ち上げて検討し、2007年1月に作成した試案である。

各学年に配置されている実習の種類と名称、体験的な学習を重視する授業科目群、副実習の種類等々との関連を明示すると共に、「教職実践演習」を6つのグループに編成して、それぞれのグループが目指す「育成する力の特徴」を挙げている。

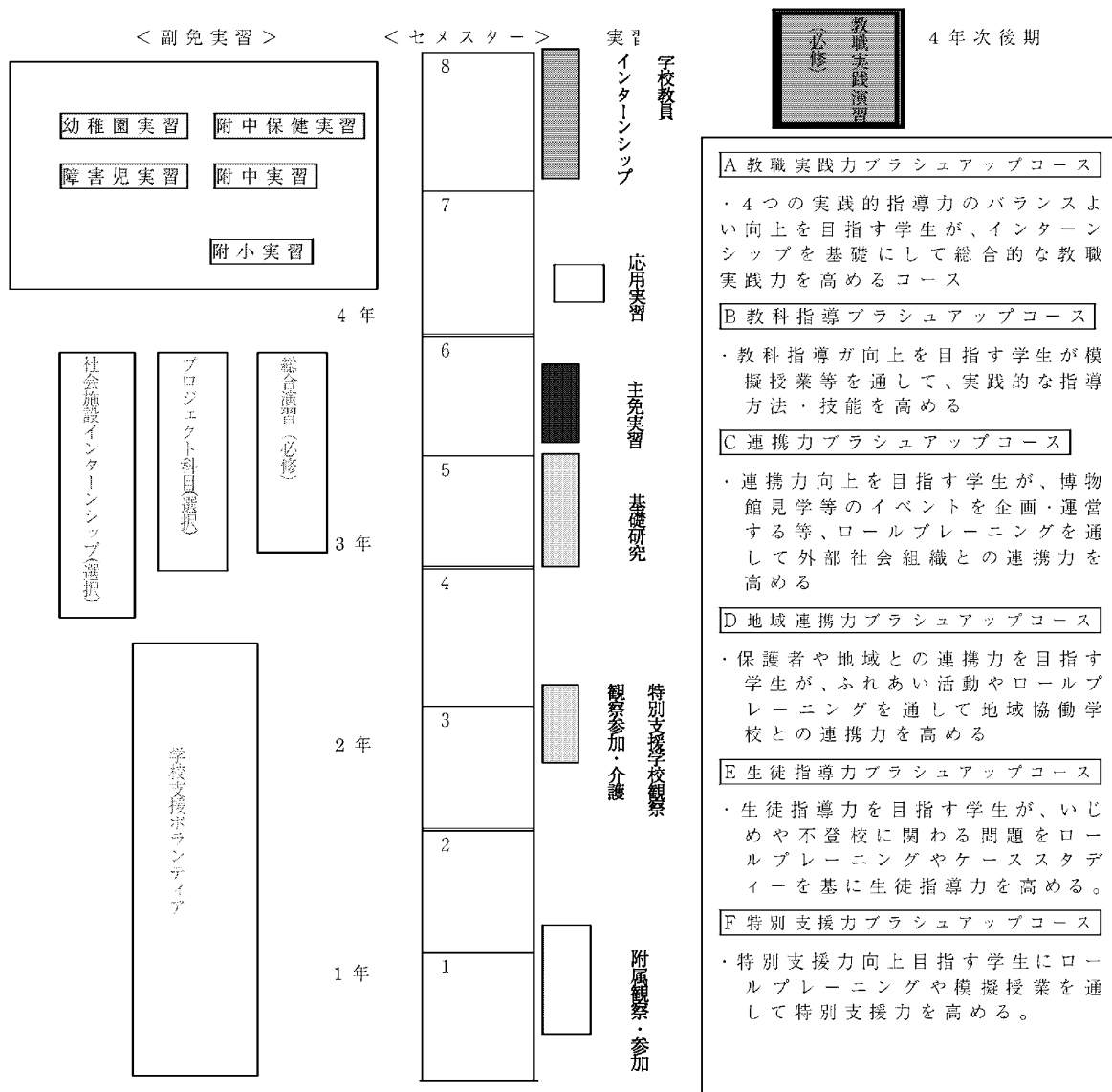
即ち、教職実践力、教科指導力、社会教育施設等との連携力、保護者や地域との連携力、生徒指導力、特別支援力等々である。

【図3】15)は、「教職実践演習」が目指している教員として最低限必要に資質能力の育成を、本学部において、1年次から順次どのように身につけていくのかを示したものである。

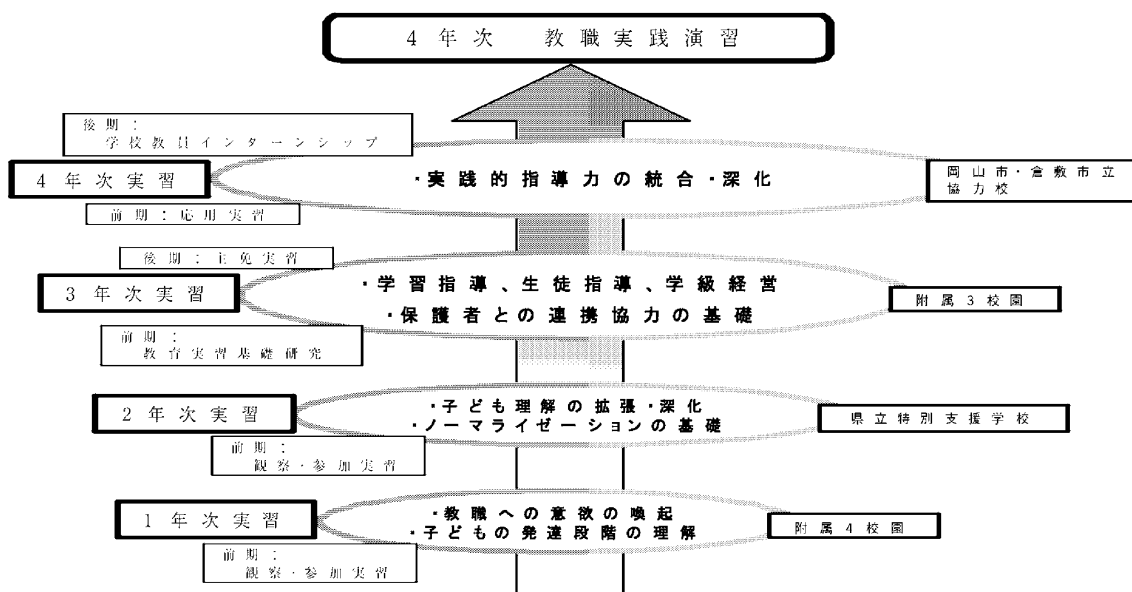
なお、「教職実践演習」のシラバスの具体的な作成は、今後の課題となっている。

「ポートフォリオ」では、各学年における実習の自己評価の視点と指標を、【事前の段階】と【事後の段階】に分け、4つの力のそれぞれについて示し、学生が自己評価し、教員がそれを見て評価する様式を定めている。2008年度はその試行段階にあり、目下、附属4校園との調整を進めているところである。

【図2】「実習・教職実践演習等ワーキンググループ」が作成した資料 2007、1月9日



【図3】



V. おわりに

「ポートフォリオ」に掲載している、教育実習に対する実習生用の事前「自己評価」、及び事後「評価」の視点及び指標は、2008年度は試行段階である。

今後、学生たちの要望等を受けて検討すると共に、検討附属校園の先生方とも意見交換しながら、充実に図り、本格実施とする予定である。

「教職実践演習」のクラス編成の在り方、具体的なシラバス作成等については、目下、検討を重ねているところである。近々、教育委員会及び学校との折衝を進めていく必要がある。

課程認定を受けている7他学部(文学部, 法学部, 経済学部, 工学部, 理学部, 農学部, 環境理工学部)において、実践的な指導力の育成を目指した教員養成カリキュラムの理念の追求と編成は、特に「教職実践演習」の在り方を中心として、焦眉の課題である。その際、教育学部のこれまでの成果が、他学部においてどのように活かし得るのか。教員養成教育をめぐる、学部間の連携協力がこれまでになく強く求められよう。

障害児教育コース及び養護教諭養成課程の「実習」については本稿では触れていない。

教育委員会が実施している「学校支援ボランティア」「教師への道」等に参加している学生たちが、その活動を通じてどのような教師力量を形成しているのかについても、触れることができなかった。

これらについては、別の機会に譲りたい。

【注及び引用文献】

- 1) 市川寿美子他編 「2000年度 教育小六法」 教員の地位に関する勧告 1966年10月5日 (名古屋大学教育法研究会訳) 1104頁 学陽書房
- 2) 教育職員養成審議会第3次答申 「教員の資質能力の向上方策等について」 1987年12月
- 3) 教育職員養成審議会第1次答申 「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」 1997年7月
- 4) 教育職員養成審議会第3次答申 「養成と採用・

- 研修との連携の円滑化について」 1999年12月
- 5) 岡山大学教育学部 4年間「教育実習」積み上げ方式 筆者作成。
- 6) 「平成18年度 岡山大学教育学部・岡山県教育委員会 連携協力事業研究報告書」 岡山大学教育学部 2007年3月 23頁
- 7) 岡山大学教育学部 HP 授業内容・教育紹介 <http://www.okayama-u.ac.jp/user/ed/edkyoiku/core.html>
- 8) 「実践的指導力育成のための学びの軌跡 教職実践ポートフォリオ」 岡山大学教育学部 2008年度 (2008年度は試行段階。)
- 9) 「教育実践力を構成する4つの力とその内容項目」 「ポートフォリオ」の内容に基づいて作成。各項目についての説明文は省略した。
- 10) 前掲「ポートフォリオ」
- 11) 岡山大学教育学部 HP 前掲
- 12) 岡山県教育庁指導課 「平成20年度「教師への道」インターンシップ事業 募集案内」
- 13) 中央教育審議会答申 「今後の教員養成・免許制度の基本的な在り方について」 2006年7月
- 14) 「教職実践演習の実施に当たっての留意事項」 課程認定委員会決定 平成20年10月24日
- 15) 前掲「ポートフォリオ」

【参考文献及び資料】

- 1) 黒崎東洋郎・有吉英樹 「教職実践演習の構想と今後の課題 — 岡山大学の取り組み — 」 教育実習研究 第21集 平成19年度 日本教育大学協会 全国教育実習研究部門 14~15頁
- 2) 福田幸男監修 「小学校教員を目指す人のための教育実習ノート 横浜スタンダード準拠」 東洋館出版社 2008年
- 3) 群馬大学教育学部教育実習委員会編 「平成20年度版 教育実習指導の手引き」 2008年
- 4) 上越教育大学 「特色ある大学教育支援プログラム」 <http://www.juen.ac.jp/gp/tokushoku/contents/>

Title : Teacher education aimed at developing practical teaching skills :

The case of Okayama University Faculty of Education

Hideki ARIYOSHI (Faculty of Education Okayama University)

Key words : practical teaching skills, teaching practice, teacher education, traits and abilities, Senior Seminar for Prospective Teachers
